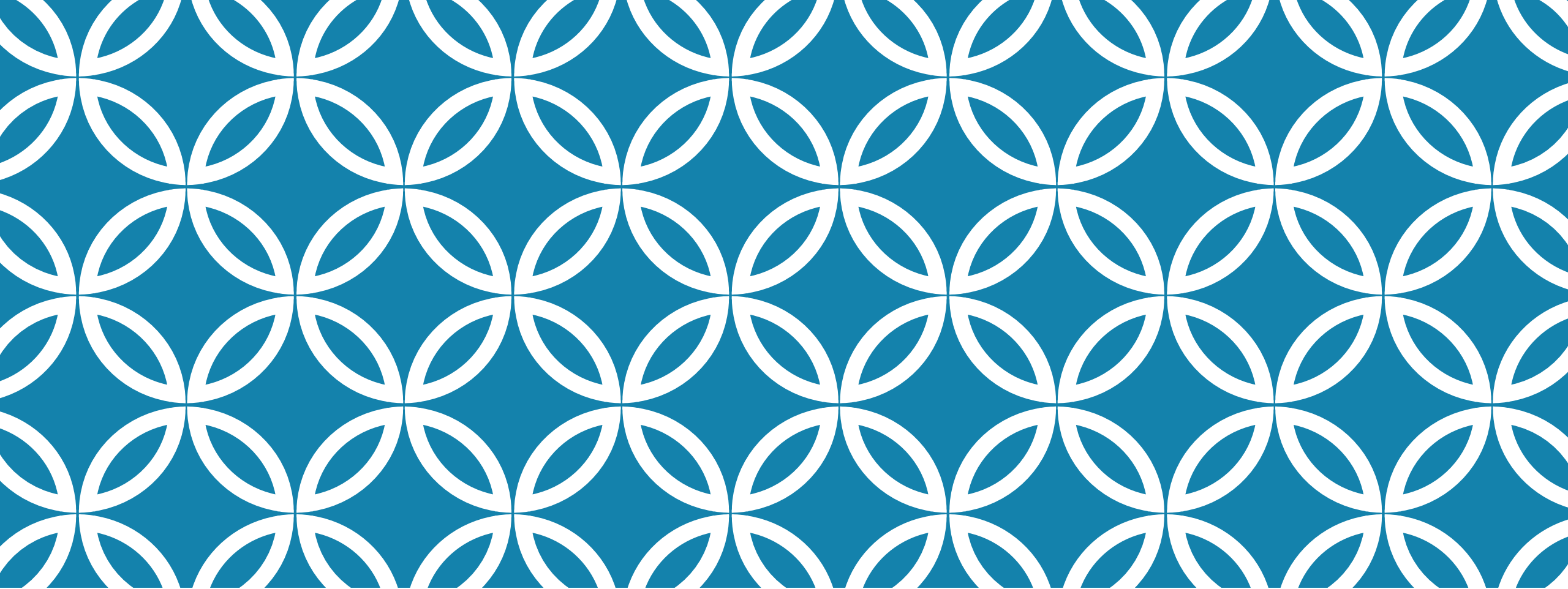




「濃昼山道」を読みに行く

2024年5月25日(土) 催行

「濃昼」をなんと読む？

これは「ごきびる」と読み、
アイヌ語で「岬の陰・水渦巻く所」という意味。

オロロンラインを札幌から増毛方面に向かってしていると道の駅のある厚田を越えた先に濃昼という集落がある。

「濃昼山道」は、その濃昼地区と厚田区安瀬（やさすけ）を結ぶ延長約11kmの山道で、安政4（1857）年に幕府の命を受けた厚田場所請負人浜屋与三右衛門が濃昼でニシン漁をする漁民を使い完成させた。

その後、廃道状態になっていたが、平成12（2000）年に保存会が立上がり、笹刈りなどの整備を行った結果、平成17（2005）年9月25日に開通した。

水準点などの歴史的遺物が遺っており歴史を感じられるだけでなく、石狩湾の眺望や季節の花などの自然が楽しめる散策路となっている。

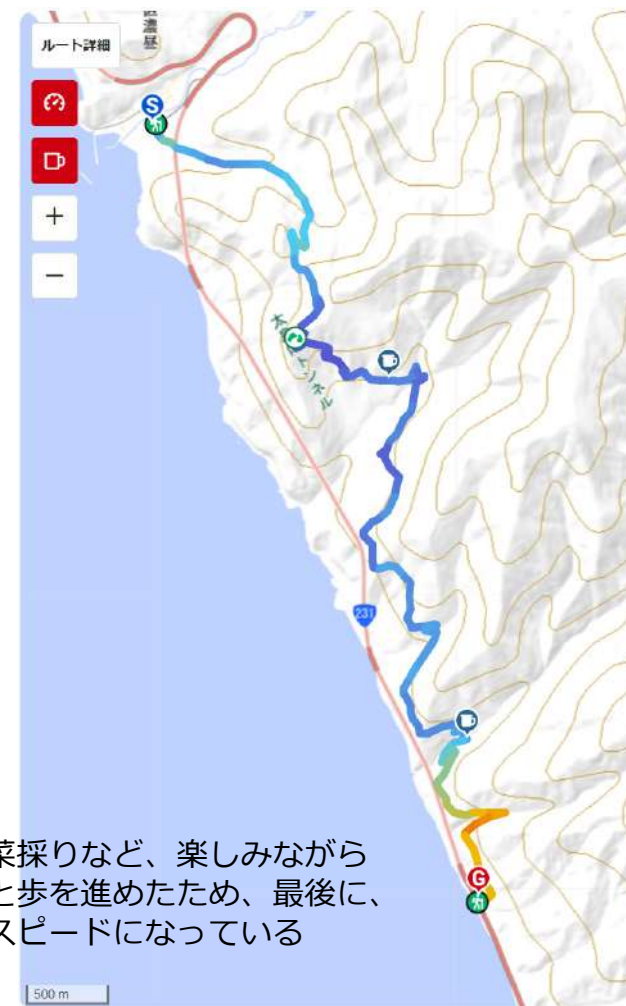
平成30（2018）年に、北海道遺産に選定されている。



出典：濃昼山道 パンフレット（濃昼山道保存会）

山行の概要

- 実施日は2024年5月25日(土)
- 5月の軽登山部の企画として催行
- 濃昼出身者を含めた12名が参加
(マイケル、地元ガイド、ひとみ、みぽりん、はるきち、マリ、大番頭、斉藤、りーな、ブー、いがちゃん)
- 滝ノ沢側から入山するパーティと濃昼側からのパーティの2つに分れた交差縦走
- タイムライン（濃昼チーム）
 - 9:00：濃昼登山口より入山
 - 10:45：濃昼峠
 - 11:30：滝ノ沢チームと合流（休憩）
 - 15:00：滝ノ沢登山口 着
(滝ノ沢チームを1時間ほど待たせてしまいました。すみません！)
- 濃昼～滝ノ沢の距離は、約11km



前半、山菜採りなど、楽しみながら
ゆっくりと歩を進めたため、最後に、
かなりのスピードになっている

整備されていて分かりやすい登山道



登山口（濃昼側）



送電線と並行して進む



看板／表示が充実



数カ所に渡渉があるが、
増水していなければ登山靴で渡れる

歴史の遺物を見つけながら 歩を進める

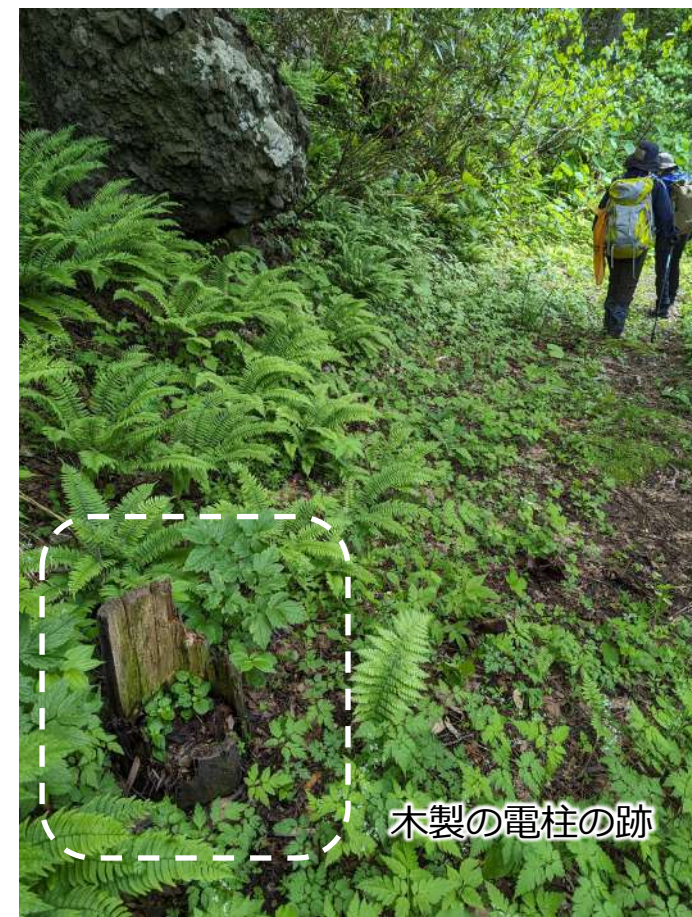


途中に4箇所ほど
当時設置された
「水準点※」
がある

※ 主要道路沿いに設置
され、各地点の高さ
を測量するための基
準として利用される



碇子が所々に落ちている



木製の電柱の跡

濃昼側には眺望の良い場所が多い



濃昼峠



仲間、集まる



喫茶ひとみ、開店です



マリさんお手製のメチャウマ桜餅
ごちそうさまでした！



暖かいお茶での団らん

今回の山行は、2パーティーに分れて交差縦走だったので、合流地点にて皆さんでお茶しました。
でも、なぜか、中間地点ではなかった・・・

色とりどりの季節の花々



これらの花の名前、分かりますか？ 最近ではGoogleレンズなどの便利なツールがあります。ぜひ、調べてみてください。

一方で、希少種の違法採取／盗掘があると聞きました。みんなで末永く自然を楽しみたいと思いました。

無事に下山しました



落と蕨を少し頂いて、
美味しく皆さんの胃袋に

最後に

- 濃昼峠の手前に、松浦武四郎の探検路とされる濃昼古道との分岐があまりました。こういうのって、行ってみたいくなりますよね。
- 付近には濃昼山道以外の古道もあり、こちらも気になります。
- 軽登山部さん、ステキな企画をありがとうございました！



濃昼古道との分岐

■ 濃昼山道（ごきびるさんどう）

濃昼山道は、厚田区安瀬（やそすけ）と濃昼を結ぶ延長約 11km の山道です。幕府の命を受けた厚田場所請負人浜屋与三右衛門が、濃昼でニシン漁をする漁民を使い安政 4（1857）年に完成させました。

完成後は庄内藩による北方警備の要路、さらには地域住民の生活道路として 100 年以上にわたり利用されてきました。しかし、濃昼山道は狭く険しい道が続き道内でも屈指の難所として知られました。明治 20 年代の改修によりルートが変更されましたが、難所であることは変わらず、事故で亡くなった人も少なくありません。

昭和 46（1971）年に安瀬－濃昼間の国道 231 号が完成したため、濃昼

山道の役割も終わりました。現在は、海を望みながらのトレッキングやトレイルランニングを多くの人が楽しんでいます。



濃昼峠からの眺望

滝ノ沢登山口側にある説明

文化庁
NOKURYU KODO



バビシェ・マウンテン・クラブ